

財団法人京都国際文化協会
第34回(2011年度)エッセーコンテスト
《私の見た日本と世界》

日本での就職活動が与えてくれたもの

王 麗琴



「メールにて 祈り祈られ 数十社 私は神か それとも仏か」

これは、就職活動をしている学生が書いた川柳です。「祈る」という言葉は宗教のなかでは神聖な行為のはずです。しかし、この川柳のなかの「祈る」は仏陀やイエスキリストに祈るということではありません。この「祈る」という言葉は、「不合格です」という就職活動の選考結果でよく聞く言葉なのです。

「玉様のご健闘をお祈りいたします」と、私も企業から何度も祈り祈られました。

つい一週間前までの地面温度 40 度にも達している真夏に、着慣れていない分厚いスーツを着て、黒い就活用カバンに企業パンフレットから、参考資料、就活本まで隙間がなくなるまで詰め込んで、汗だくで就職活動が続けている自分の姿が浮かび上がってきます。多くの就活生と同じように、内定が取れず、悪戦苦闘をしながらも、毎日のように自分に問い続けてきました。「これをやって、何の役に立つのか」、「どんな見返りが期待できるのか」、「内定はいつ出るのか」。就職活動をしている学生の一人として、就活に伴う辛さ、悔しさ、無力さを、身をもって体験しました。

中国では、就職活動においてもっとも重視されるのは資格や能力、大学で学んだ専門知識です。中国の企業は、日本のように社員を一から育てる文化があまりないため、最初から即戦力になりそうな人を取ります。新卒もちろん例外ではありません。ですから、卒業時によりよい就職をするため、大学の 4 年間はまさに最も肝心な期間です。そのため、自分の専門はもちろん、専門ではない外国語や資格の勉強にも必死に取り組まないとなりません。私の場合は、専門の日本語の勉強以外も、土日や夏休みを利用して、会計士資格から、秘書認定資格まで取りました。なぜなら、入社したら、すぐにでも売上や企業実績を伸ばせる人でなければ、企業は私たちを採用しないからです。

このように、中国の就職活動では、選考試験では資格や能力などで判断されるので、結果に納得できることが多いです。落ちたということは、自分の能力が足りなかったり、企業にとってすぐにプラスになるような人材ではなかったり、あるいはもっと能力の高い人が現れたりしたことが多いのです。簡単に言うと、今現時点で持っている知識、資格、能力で判断されるので、選ばれるのも選ばれないのも自分次第だと考え、就職するためにすべきことは何か、何を努力したらいいのか、迷うことはありません。

しかし、日本の就職活動は違いました。最も重視されるのは資格や能力ではないようです。面接の質問も、私が一生懸命調べた企業や業界の仕事、努力して得た資格や能力についてなどではなく、「あなたのこれだけは負けない長所は何ですか」、「私が今までで一番感動したことは何か」、「友達にあなたはどう思われていると思うか」など、中国の就職試験では出ないような質問ばかりで、これでどうやって人の能力を図っているのかと、最初は不満に思うことも多かったです。そして、落ちた原因が分からず、内定を得るために何を变えたらいいのか、どんな準備をしたらいいのか分からなくなりました。

しかし、企業訪問や面接を繰り返しているうちに、日本の企業が求める人物像が少しずつ分かってきました。それは、会社という大きなチームの一員としてうまくやっていける協調性のある人間であるかどうか、今後大きな成長を遂げるため今の自分を否定できる謙虚さに溢れる人間であるかどうか、また、きつい作業や地味な作業を毎日コツコツと続ける忍耐力がある人間であるかどうかを、企業は大いに重視しているようです。今の私を評価するのではなく、これから 5 年、10 年、

40年先の私を、私の成長を見込んで採用するかどうかを決めているのです。

また、ある人事担当者から以下のような話を聞いて、日本の就職活動へのいろいろな疑問や不満も一瞬で解けました。人事の方々は「選考に来た学生には気持ちよく帰ってもらうこと」を念頭において採用試験を行っているのだそうです。自社を志望するということは同じ業界を志望することが多いはずで、その学生が、もしかしたら取引先企業の担当者となるかもしれません。得意先のお客様となる可能性さえあります。このように、「未来の得意先であり、お客様になるかもしれない」志望者を疎かにしてはいけなと考えているのだそうです。この話を聞いたときに、私は大学生のときに、日本の企業が「和」を尊ぶ習慣のあることを思い出しました。そして、同じ会社のだけではなく、将来の取引の「和」を考えて行動する日本企業に大きな衝撃を覚えました。そうなのです。日本の会社は「和」を重んじる風土があるのです。就職活動で、資格や能力ではなく、私のこれまでの体験や私の考え方についてばかり質問されるのは、会社の「和」を重んじるために、その会社の「和」の一部となるかどうかを確かめるためではないかと私は思うようになりました。

このように、日本の就職活動は人間性が見られるため、私たちは自分のことを深く、深く考えなければなりません。そして、それを繰り返していくうちに、不思議に自分のことが見えてきて、「自分ってこういう人だ」、「自分にはこのような一面もあった」、「実は自分がこういうことがやりたかった」が分かり、自分にとって大切なもの、自分がこれから一生をかけて追っていく夢が、まだまだぼんやりですが、少しずつ見えてきました。

確かに、日本の就活は厳しいものです。長い時間と労力を要するだけでなく、私たちの汗、涙、不安、葛藤もたくさん伴います。しかし、これから、私たちは厳しい世の中で生きていかなければなりません。私たちにとって、就職活動で味わった辛さこそが、これからの長い人生においての良い試練になるのではないのでしょうか。そして、日本の就職活動はまさに、雛鳥の私たちを空の制覇の座に座る強い鷹に成長させてくれるよい環境だと私は信じています。

私は幸運にも長くてつらい就職活動で「内々定」という成功を勝ち取ることができました。しかし、私が就職活動で得たものは「内々定」という合格通知だけではありません。独特な「日本の就職活動」を通して、これまで知らなかった自分に出会い、新たな夢や目標を描けるようになりました。将来の大きな希望に向けて、新しい自分として飛び立つ勇気を得ました。今こそが大いに成長するときです。今こそが「本当の自分」を探すときです。今こそが「働く意味」、「生きる目的」を真剣に考えるときです。

そうです。「内定」はゴールではありません。内定は新しい自分の「黎明」なのです。